

ヤング賞



《釣りに夢中》吉川 寧音(奄美市)

[評]
時間を忘れて釣りに夢中になっている子どもを敢えて影で表現するという若き才能に嫉妬しそうな作品。加工無しとは思えないほど紫色の空と子どもの対比が美しい。作者がシャッターに集中している様子が想像できる。

[入選(賞候補)]

小島尚子(愛知県)高橋つむぎ(龍郷町)和田大澄(天城町)畑寧音(奄美市)常田日和(奄美市)俵一心(奄美市)テツ中嶋(奄美市)折田卓郎(伊仙町)田畑より子(奄美市※2点賞候補)福崎弘美(東京都)積信一(奄美市)濱田旭(奄美市)児玉葵(奄美市)ROCKY ARAKI(埼玉県)西田実智(奄美市)廣司健人(奄美市)土屋尚幸(奄美市)佐竹すみれ(龍郷町)森慎一(龍郷町)NAMI(奄美市)梶谷寿治(奄美市)

[入選]

藤野隆三郎(奄美市)高吉宣長(鹿児島市)小島尚子(愛知県)杲和美(滋賀県)松岡由紀(伊仙町)河本明日香(奄美市※2点入選)鈴木明(龍郷町)中宮弘夢(奄美市)二瓶成(龍郷町)汾陽優心(奄美市)永田羽音(奄美市※2点入選)山田心南(龍郷町)溜畑李乃娃(奄美市※2点入選)諏訪結音(奄美市)清正鈴之介(奄美市※3点入選)森俐穂(奄美市)碓山咲(龍郷町)内洞敬介(奄美市)窪田桜子(奄美市)高橋つむぎ(龍郷町)西音色(奄美市※2点入選)益田裕進(奄美市)安田颯太(奄美市)西田百伽(龍郷町)米貫太(伊仙町※2点入選)篠原絢音(奄美市※2点入選)元勘九郎(奄美市)村山実姫(奄美市)山下慧人(奄美市)前田虎徹(龍郷町)西野結海(奄美市※2点入選)常田日和(奄美市)廣田彩乃(奄美市)山城そら(奄美市※2点入選)岩木蒼平(奄美市※2点入選)峯京太郎(宇検村※2点入選)島あい(奄美市)テツ中嶋(奄美市)折田卓郎(伊仙町)田畑より子(奄美市)山久広男(瀬戸内町)中村実花(福岡県)積信一(奄美市)森山聖也(神奈川県)ハスケル映美(神奈川県)星詠風翠(大阪府※2点入選)石塚良二(東京都)山田素義(兵庫県)黒川マリア(奄美市※3点入選)濱田旭(奄美市※2点入選)MITCHY(奄美市)園こうじろう(知名町)秋元愛(福岡県)川田裕太(奄美市※2点入選)寺岡勇泰(奄美市)豊倉世梨佳(奄美市※2点入選)青海千尋(神奈川県※2点入選)富居ゆかり(喜界町)村山結(奄美市)児玉葵(奄美市※2点入選)泉誠志郎(奄美市※2点入選)吉川寧音(奄美市)植田玲央(奄美市)福山心(奄美市)屋宮央哉(奄美市※2点入選)土屋尚幸(奄美市)清水綾(東京都)隈元香里(奄美市)佐竹すみれ(龍郷町※2点入選)里村強志(宇検村)小野木透(奄美市※2点入選)前田穰(神奈川県)前田正美(神奈川県)直田夕輝(奄美市※2点入選)平井隆(奄美市※2点入選)富健二郎(奄美市)レイス佳奈(龍郷町※2点入選)レイス渡和(龍郷町)榮乃愛(龍郷町)高優一郎(龍郷町)akubi(知名町)

[審査総評]

第4回の今回は応募総数 276 点合計 117 名の方々から多種多様にわたる作品が集まり嬉しい思いである。私が審査する中で大事にしたのは、写真から伝わる音や雰囲気、タイトルとの整合性である。審査中は喧噪音や森の静けさなど色んな音が響いていた。写真や動画の世界は今や AI が台頭し本物との見極めが難しいが、カメラで撮るという行為は作者の想いが映し出された世界でたった1枚の作品となる。これは感情のない AI が追いつけない部分である。音楽業界ではカセットテープの需要が増えているようだ。自作のオリジナルテープが手元にあり触れる事の出来る喜びが要因らしい。写真業界に当てはめると、それは作品を印刷し質感を味わい額縁に入れて飾って楽しむ事だ。また昔のカメラは撮影枚数制限があった。無限にある被写体の瞬間を有限として大事にシャッターを切っていくのもカメラの醍醐味の一つである。是非、写真を飾りこれからも各自の撮影スタイルを楽しんで欲しい。(審査員長 屋田賀史)

第4回奄美を写す写真展

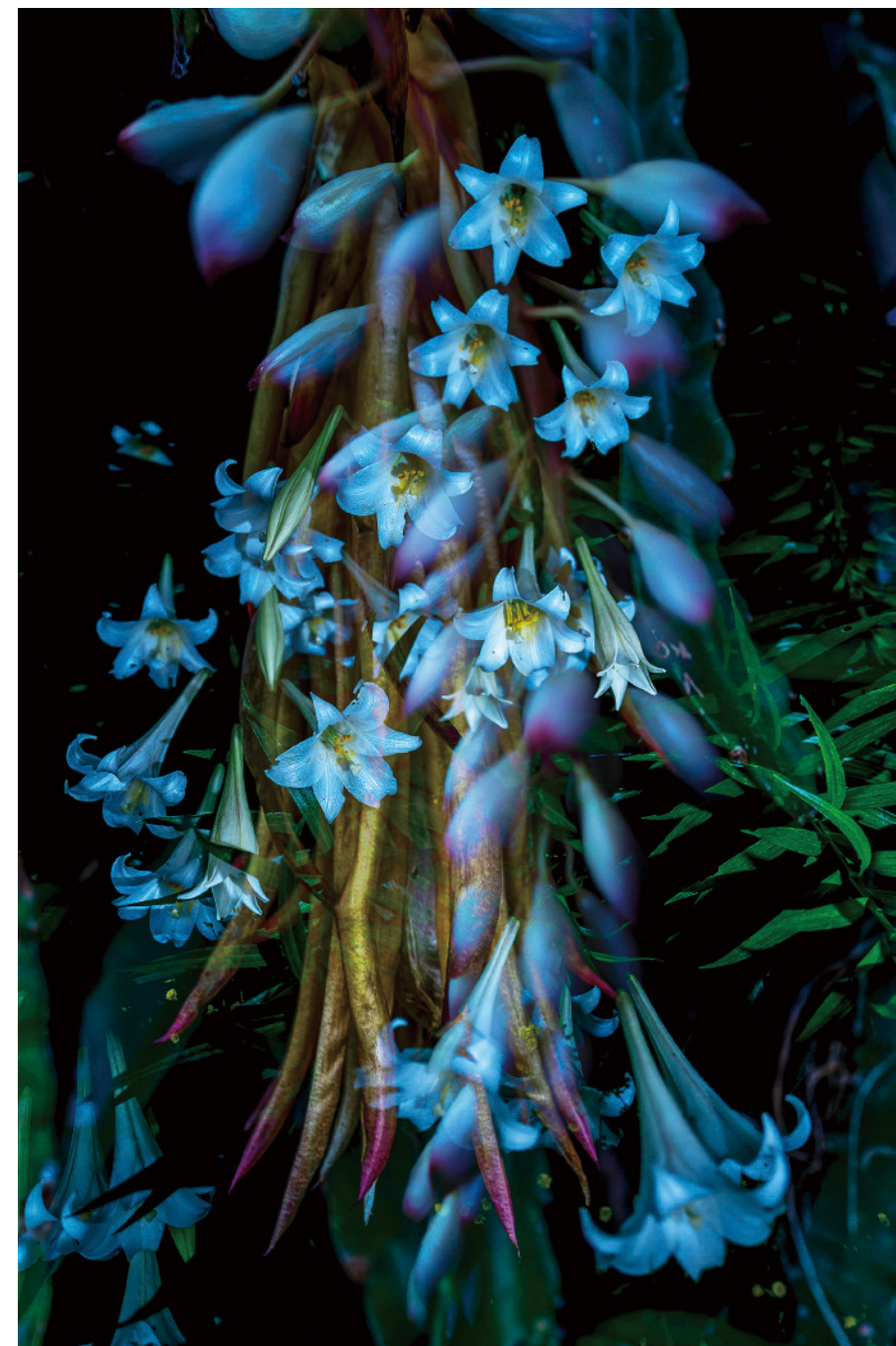
主催 奄美を写す写真展実行委員会
共催 奄美群島広域事務組合(鹿児島県奄美パーク)
後援 (一社)奄美群島観光物産協会 奄美新聞社 南海日日新聞社 あまみエフエム ディ!ウェイヴ
審査員 屋田賀史(Amami Style 代表, 映像作家), 武部守俊(写真芸術家)
事務局 田中一村記念美術館(電話 0997-55-2635 〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田 1834)

発行日: 令和8年1月24日 ※本目録の全部または一部を無断に転載・複製することを禁じます。

第4回 奄美を写す写真展

会期 令和8年1月24日(土)~2月23日(月・祝)
※休館日 2月4日(水), 2月18日(水)
開館時間 9:00~18:00 ※入館は17:30まで
会場 田中一村記念美術館 企画展示室 ※観覧無料

大賞



《ネリヤカナヤ》土屋 尚幸(奄美市)

[評]
遙か遠く海の彼方にあるとされる理想郷「ネリヤカナヤ」。その理想郷に海の珊瑚礁の如く咲いているような作品。一枚一枚を撮影する技術やライトルームを使用した重ね合わせの編集も高く、その作者世界に引き込まれた。

田中一村記念美術館賞

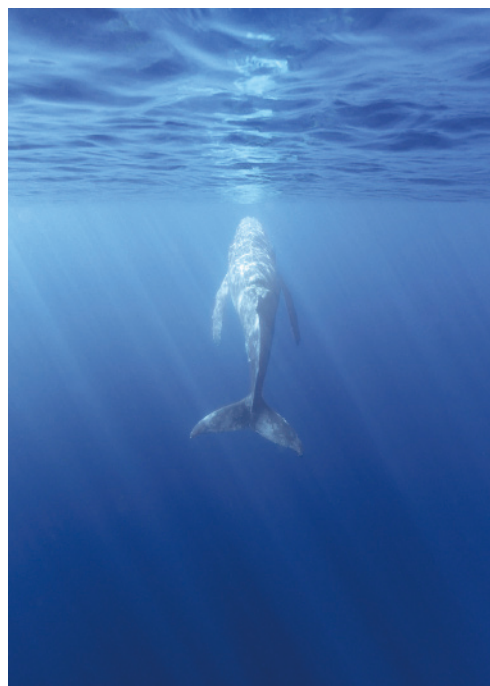


《 奄美山水 》里村 強志 (宇検村)

[評]

早朝の鳥たちのさえずりが響きわたる静寂な山並みを山水画のように演出。コントラストの表現が上手く山稜や霧の佇まい、田中一村も歩いた奄美大島の山々、一村もこの風景に出会っていたら筆を動かしていただろう。

優 秀 賞



《 光の道 》川田 裕太 (奄美市)

[評]
水中写真では一度は撮ってみたいと思う被写体であるクジラ。追うのも難しいはずなのによく撮れたな～凄い！の一言である。静かな海の中に差し込む光が美しく、クジラと作者の道標になっているかのような素敵な作品だ。



《 民族衣装 BA77 》森 慎一 (龍郷町)

[評]
本来カラフルであるバナナの葉や実をモノクロで表現することで時間が止まったように感じた。アジアの民族衣装を纏った人達が踊っているようにも見える。バナナの溢れた生命力、忍耐力を前面に出した力強い作品である。

優 秀 賞

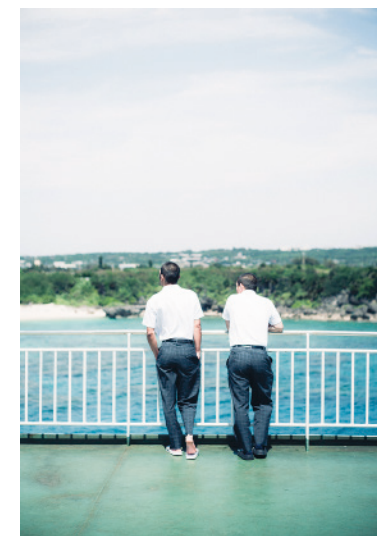


《 夕日を追いかける少女 》MARIYO (大阪府)

[評]

子どもの「お～い待って～」という声が聞こえてきそうな微笑ましい作品。構図も良く日常の瞬間をタイミングバッチリで捉えている。作者も子どもも笑顔で笑いながら撮影していると思われる、見ていて幸せ溢れる一枚だ。

佳 作



《 遠征 》akubi (知名町)

[評]

船の甲板で撮る事が出来る離島ならではの風景で男子学生 2 人の会話が想像できる。縦構図が船と島の距離を表現できていて、波の音まで聞こえてきそうなほんわかする作品である。学生服というのも船とマッチしていた。



《 月夜の疾走 》積 信一 (奄美市)

[評]

オーストラリアの気象現象である「モーニンググローリー」を彷彿させる作品。タイミング良く雲が月を覆い星空と月夜の対比表現が綺麗である。広角レンズならではの雲の動きもタイトル通り疾走感があって素晴らしい。



《 島陰 》泉 誠志郎 (奄美市)

[評]

応募作品の中で異彩を放っていた作品。写真と言うより芸術作品ではないのか？と考え悩んだ。明るさ調整だけということらしいが、敢えて白飛びさせ際を引き出す手法なのか、作者の持つ独特な感性にただただ驚かされた。



《 朝陽射す 》榎谷 寿治 (奄美市)

[評]

奥に朝焼けの太陽と天使のハシゴ、手前には緑の絨毯と多彩な色合いがまとまって素敵な作品である。黄金に照らされているのはススキかサトウキビの花であろうか、露出の難しい朝焼け撮影、アクセントとして良い感じだ。